

緩和ケア

当該診療科の特長	<p>緩和ケア病棟は平成8年に開設、現在22床で運営している。神戸市北区を中心に年間200人以上の入院を受けており、終末期や症状コントロール、レスパイト入院を含む緩和医療を提供している。</p> <p>緩和ケアチームは平成18年に活動開始、一般病棟入院中の悪性腫瘍または後天性免疫不全症候群における身体的・精神的苦痛の症状緩和を行っているが、「がんの治療から緩和医療までを担える治療病院である」特性を生かし、必要に応じて緩和ケア外来の調整や、緩和ケア病棟への転棟の支援なども行っている。</p> <p>また、在宅診療を希望される場合は在宅診療医との連携によりスムーズな連携を図るとともに、入院必要時は緊急度に応じて対応している。</p>	
プログラムの特長	<p>医師である前に、一人の人間として患者と向き合い、がん症状緩和の専門的知識や手技を習得するとともに、看護スタッフ、薬剤師、栄養士などと協働する医療チームとして全人的アプローチを行うことを目標としている。</p> <p>また、予後予測も念頭に置きながら患者や家族のニーズを聞き、外出泊、食事内容の提供や過ごし方の相談を行い、患者や家族のQOLの維持・向上に対して支援・援助できることも目標としている。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① がん性疼痛に関して、基本的鎮痛薬（非オピオイド鎮痛薬、オピオイド鎮痛薬、鎮痛補助薬）の特長や副作用、「WHOがん疼痛除痛ラダー」を理解し、各患者に応じた薬剤の選択、併用、対処ができる。 ② がんに伴う呼吸器症状、消化器症状、精神症状について理解し、各患者に応じた薬剤の選択、処置を行える。 ③ 治療抵抗性の苦痛および鎮静について理解し、医療チームや患者や家族と検討しながら適切な対処を行える。 ④ 精神症状も含む全人的苦痛へのアプローチを行える。 ⑤ ACPなどの意思確認や思いの傾聴などを通して、プロセスの重要性を理解するとともに患者や家族と良好なコミュニケーションを図ることができる。 ⑥ 非がん（心不全、呼吸器疾患）への症状緩和をコンサルテーションチームとして提案できる。 ⑦ 患者の希望の実現に向けた支援・援助やアプローチが行える、または支援・援助可能なチームに相談することができる。 	
研修期間	3年間	
取得可能な資格等	学会名	取得可能な資格
	日本緩和医療学会	緩和医療専門医
指導体制	専任1名 兼任1名	
その他	なし	